

コラム 著作集の著者 その家族・親族関係

本書は、当館の所蔵する近現代日本の思想・学問系の個人著作集について、本編 41 点、その他として 283 点、計 324 点を紹介していますが、もちろんこれが当館のもつ個人著作集のすべてではありません。外国人著者の著作集、そして圧倒的に多い日本の文芸作家(詩人・劇作家・小説家・随筆家等)及び芸術家の作品著作集を併せれば、当館の所蔵する個人著作集は優に 2000 点を超えるでしょう。

それはともかく、今回取り上げた著作集とその周辺に限っても、著者たちの家族・親族の関係が見えてくるのは興味深いことです。

このあとのページから始まる「神奈川県立図書館所蔵 その他の主な著作集一覧」の中に、夫婦の名を表題とする著作集が 2 つあります。著作集番号 003 『寿岳文章・しづ著作集』と 258 『相馬愛蔵・黒光著作集』がそれです。寿岳文章は書誌学・英文学・翻訳等で活躍、しづ夫人も翻訳家・随筆家として知られ、共著で『紙漉村旅日記』などの作品を残しています。ちなみに国語学者寿岳章子は夫妻の娘です。一方、相馬夫妻は新宿中村屋を創業、芸術家・文学者のパトロンとしても有名です。特に夫人の黒光は随筆家として自伝『黙移』等、多くの著書があります。

このほか、夫婦でそれぞれ著作集を出しているのが、133 『波多野完治全集』と 132 『波多野勤子著作集』の波多野夫妻とともに心理学者。関東大震災直後に悲劇的な最期を迎えた、GW20 『大杉栄全集』の大杉と 280 『定本伊藤野枝全集』の伊藤野枝も戸籍はともかく実質上夫婦でした。ついでに言えば、206 『辻潤全集』の辻潤は野枝の元夫です。GW10 『幸徳秋水全集』の幸徳と 275 『菅野須賀子全集』の菅野須賀子は恋愛・同棲中の関係でしたが、ともに大逆事件で処刑されました。GW274 『山川均全集』に対して、

妻山川菊枝も有名な社会運動家で著作集も出ていますが、当館が完全には所蔵していないため菊枝の名は一覧には掲載されていません。

親子で著作集の例もいくつか見られます。親子の順で著作集を列挙してみます。063 『桑原隲蔵全集』 - 233 『桑原武夫全集』。102 『大内兵衛著作集』 - 111 『大内力経済学大系』。018 『高坂正顕著作集』 - 093 『高坂正堯著作集』。183 『金田一京助全集』 - 『金田一春彦著作集』(玉川大学出版部から刊行開始。購入予定)。そして、「コラム 著作集をもたない大家たち」で取り上げた朝永三十郎 - 157 『朝永振一郎著作集』となります。義理の親子は、124 『羽仁もと子著作集』 - 072 『羽仁五郎戦後著作集』で、五郎はもと子の娘羽仁説子の婿です。さらに、祖父 - 孫の関係が 243 『森有禮全集』 - 026 『森有正全集』、叔父 - 甥の関係が 165 『嘉納治五郎著作集』 - GW25 『柳宗悦全集』です。

兄弟で有名なのが小川家の三兄弟で、上から 075 『貝塚茂樹著作集』、158 『湯川秀樹著作集』、201 『小川環樹著作集』と異なる分野で活躍しました。著作集がない、あるいは文芸系の著作集である等の理由で、一覧には表れない兄弟関係も補足しておきましょう。065 『幸田成友著作集』(作家幸田露伴の弟) 052 『石原謙著作集』(物理学者・歌人石原純の弟) 227 『丸岡秀子評論集』(政治家井出一太郎、作家井出孫六の姉) 216 『小田切秀雄全集』(文芸評論家で神奈川近代文学館館長を務めた小田切進の兄) 152 『谷川健一著作集』(「コラム 著作集をもたない大家たち」の評論家・詩人谷川雁の兄) 238 『鶴見俊輔集』(社会学者鶴見和子の弟) そして 229 『鶴見良行著作集』は前記鶴見姉弟の従弟に当たります。

以上、雑学的知識ですが、こんな観点から著作集を眺めることもできます。